

Vol.1

民主主義・自治・協働のまちづくり

- 1.住民投票条例を市民発で
- 2.商店街の再生
- 3.空き家対策@自治会
- 4.モノレール

Vol.2

子ども、教育、女性

- 5.政治のジェンダー平等
- 6.主権者教育
- 6.包括的性教育
- 7.小中学校への予算増
教育現場に余裕を

※詳しくは4月のvol.2チラシで！

Vol.3

自然、農、環境、豊かさの継承

- 9.農あるまちあきる野を次世代へ
- 10.自然・風土・文化・湧水・屋敷林
- 11.秋川高校跡地
- 12.公共施設の再生

※詳しくは6月のvol.3チラシで！

民主主義

新たなマッチング

1_市民発！住民投票を含む自治基本条例を

市民が、あきる野の今そして未来について考え、声にし、行動することでまちの未来をアップデートしたいです。そのために「参加、協働、情報の共有の仕組み」を定めた市独自の自治基本条例が必要です。例えば、行政の事業は実現まで長期にわたることが多々あり、一度決まると立ち止まったり考え直すことがしにくい状況があります。社会の変化がますます早まる中で、10年20年前に決まったことを再考できる仕組み、市民が**おかしいと思うことに声を上げることができる仕組み**として、**自治基本条例（住民投票）を定める**ことができます。市民の声を集めて、市民発の住民投票条例を作りましょう！

2_商店街の再生

大型店舗に車で買物に行くスタイルが定着して久しいです。だからこそ、オーナーのこだわりや個性、手作り感、会話など、チェーン店にはないローカルな魅力を打ち出すお店が再注目される時代になってきています。徒歩や自転車で気軽に行ける近所のレストラン、通勤通学の行き帰りにふと寄りたカフェ、子ども達がクラブや部活の帰りに寄り道できるコロッケスタンド、そんなお店を増やして商店街に人が滞留する未来をイメージしています。一方、現状の商店街空き店舗は、オーナーさんの職住兼用であったりトイレの問題など諸事情があり、新たな出店が難しい状況があります。そういった課題についての相談やサポート、マッチングなど、市や商工会、店オーナーさんと協力し打開策を検討します。**顔の見える商店街が駅前を元気にし、新たな魅力にしたい！**

3_空き家対策@自治会

東秋留エリアや草花エリアは、40年ほど前に宅地化が進み当時転入された方達が高齢化し、今後空き家はますます増えると予想しています。一方、空き家の活用については、家主の理解や協力を得るのが難しいという現状があり、対策が進みにくくなっています。そこで重要な役割が期待されるのが、自治会です。地域に根付いた自治会は、空き家予備軍や空き家の管理に悩む相続人を行政のサポートにつなぐ媒体になったり、自治会主導で空き家情報を発信するなど、様々な取り組みが想定できます。代表の寺坂も建築士の経験を活かし、自治会の皆さんと共に、そんな活動ができたかと考えています。

4_モノレール どうなるの？どうするの？

あきる野市は、モノレール推進の立場をとっています。1972年に東京都が、連環都市基本計画で多摩エリアのモノレール計画を示し、秋川市時代（1981年）に「まちづくり10ヵ年計画」に推進方針が位置付けられ現在に至っています。旧秋川市における方針から45年が経過しており、仮にあきる野市に延伸されるとしても数十年後と予想され、多額の財政負担も必要です。人口減少やIT・AI技術の進化による人々の移動の変化、多様性とモビリティの関係など、さまざまな変化が否応なく加速し、同時に持続可能性が求められる時代に私たちは生きています。あきる野市として、**どんな環境やまちを目指し未来へ引き継ぐのか**、そういった視点を踏まえて、市民が考えることが大切です。

第2子が生まれて間もなく東日本大震災と原発事故を経験し、政治や社会、都市と地域の関係に関心を持つようになりました。政治分野のジェンダーバランスや世代間バランスが重要と考えながら、気づけば10年が経過していました。2024年に乳がん手術、人生の終わりを突きつけられた時、守りに入るより、行動や変化を志向している自分に気づきました。10年間の課題意識である政治のジェンダー平等を進めるため、一步踏み出します。

<プロフィール>

寺坂久美 1972年東京生まれ埼玉育ち 2017年よりあきる野市小川在住
夫・高3娘・中3息子・義父との5人暮らし 一級建築士

<好きなこと・もの・人>

ビートルズ、坂本龍一、大橋トリオ、アコギ、フルーツ、あんこ、畑仕事、ヨガ、街歩き

<経歴>

- 2000年 東海大学工学部建築学修士課程修了 大学時代はインドやベトナム、インドネシアバリ島などバックパック旅でアジアの多様な文化に触れる
- 2000～2004年 早川邦彦建築研究室にて都立高校や集合住宅の設計、公共施設のプロポーザルに携わる
- 2004年～現在 寺坂建築デザイン所一級建築士事務所
住宅、レストラン、ウェディングやホテル他商業・業務施設の設計に従事
- 2009年 越後つまりアートトリエンナーレにアーティストとして参画
- 2017年 あきる野市小川に移住 「持続可能な田んぼ」を目指し、小川久保の田んぼにて協働による米作りを開始～実践中
- 2024年末より 「あきる野のいまを知る会」に参加
秋川高校跡地のまちづくりやメタセコイア並木の保全などをテーマにフォーラムやミーティングで情報共有をしている
- 2025年 あきる野市総合計画審議会 住民代表委員として市政に参加

